

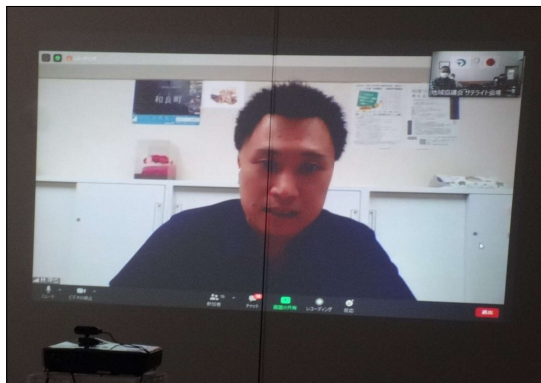
# 和良の郷だより

秋晴号  
和良おこし  
協議会発行  
和良おこし  
協議会

## 地域づくりセミナー開催

### 初めてのオンライン開催

9月22日(火曜日・祝)は「地域づくりを考える」農村地理学者からのアプローチとしてオンラインセミナーを開催しました。北海道大学大学院文学研究院 地域科学研究室 林琢也准教授を講師にお迎えし、和良町内外から計27名の参加がありました。



林先生は北海道大学大学院の研究室からZoomを使って発信していただき、参加者はそれぞれの場所から視聴しました。和良町ではサテライト会場として「郡上市役所和良庁舎」と和良おこし協議会施設「わらおこし」の2か所を設け、和良地域協議会委員と和良おこし協議会の会員に参加いただきました。和良おこし協議会



(サテライト会場「和良庁舎」の様子)



(コンピューター画面に映る参加者たち)



(サテライト会場「わらおこし」の様子)

の初めての試みで反省点もありましたが、今後に繋がる開催となりました。講師の林准教授の専門は農村地理学、観光学、地域づくり論です。地理学をベースに、日本における観光農業発展の地域システムに関する研究、都市における「農」の役割に関する研究、地域づくり・観光振興に関する実践研究などを行っています。全国各地の農村や観光地で調査を進めており、岐阜県内でも岐阜市長良地区のブドウ栽培や観光農園・直売所の経営に関する研究、そして和良町の地域づくり活動にも携わっていただいております。

上での企画することの重要性については地域づくり全般においても参考になります。後半は「地域変化の経営論」観光化、都市化・混住化に注目して「と題して、環境が変化していくなかでの地域づくりについて語られました。地域が観光化や都市化していくとき、その地域の伝統、文化、産業が大きく変化します。そのなかでどのように文化を守り、活用していくのか。また住民がどのように地域を創っていくのかについて参加者と意見交換をしながらすすめられました。

ふるさとこの伝統文化を繋げて  
郡上東中学校では、ふるさとこの文化や技能を学ぶ、ふるさとへの意識を高め、体験的な学習により個性を伸ばし、講師や仲間と協同して取り組むことを目的に「ふるさと学習」が行われています。その内容は、陶芸(講師：川上伸さん)、茶道教室(講師：川上晏子さん)、郡上踊りのお囃子(講師：藤村洋子さん・根井陽子さん)、神楽の継承(講師：大澤徹三さん・酒井義広さん)、郡上陣屋太鼓(講師：岩尾尚人さん・中村充さん)です。

9月8日(火曜日)に第一回目のふるさと学習にお邪魔しました。神楽の教室では、酒井さんより戸隠神社の歴史などの説明や現在の祭りの状態のお話から始まりました。人口減少や少子高齢化により、神楽や舞児の継承が難しくなり、神事のみが行われる祭礼が多くなってきたが、なんとかお祭りを後世まで繋いでいきたいとの思いを語っていただきました。なかにはすでにお祭りで笛で参加している生徒もあって、みなさんなかなか吹けています。別の教室では郡上踊りのお囃子も行われておりました。みんな経験しているとはいえ、最初は戸惑ったり、忘れていたところがあったようですが、時間が経つにつれて、これまでやって来たことを思い出しながら素敵な演奏になっていきました。講師の先生もあまり手をかけなくていいと話されていました。最後には「かわさき」を演奏してくれました。

(篠笛の練習風景)

# 空き家の情報提供を お願いいたします!

和良おこし協議会には、年間約50件ほどの移住相談があります。和良町の情報を得て、この地をとても気に入られた方が多く訪れてくれます。わずかに数件の空き家見学でも時間をかけてゆっくりに見ていただいております。これから暮らしてゆく場所になりますから、気になることが沢山あると思いますので、お家の状態はもちろん、地域の事、周辺環境や畑の有無などについても丁寧にお話しします。

相談者の方からは和良で子ども達をわんぱくに育てたい、自然を感じる生活がしたい、農業をやってみたい、集落の活動やお祭りに参加したいなど、それぞれのやりたい事についてお話をされます。そして、そういった暮らしを始めると、いろいろと住居が必要ですので、情報提供いただきたい空き家を紹介しています。

それぞれが思い描く田舎暮らしと、そのお家の条件が見合うと移住へと進みます。

もちろん、空き家はすぐに入居できるものばかりではありません。かといって家主さんが修繕をして貸し出すことも難しいと思います。そこで修繕については、郡上市の空き家改修補助金を使うなどして、入居される方に行っていたできます。(移住される方には修繕しても住みたい魅力が、そこにはあるのです。)大きな出費の時には家主さんと相談して家賃で応援いた



(これまで和良に移住されてきた方々)

最近、移住についての問合せや移住相談に訪れる方が大変多くなっております。やはりコロナ禍によって生活様式が変わったり、田舎暮らしへと背中を押される方が多いようです。また、ふるさと和良へのユーザーのお話を聞くこともあります。しかし、現在ご紹介できる空き家は決して多くありません。

どうぞ空き家の情報をご提供ください。ご近所さんや親戚のお家など、ひと声お声がけいただき、和良おこし協議会までご連絡をお願いいたします。また詳細をお聞きになりたい場合や、補助金取得に関しても、和良おこし協議会事務局の加藤(77-2277)までお気軽にお問合せ下さい。

※空き家の情報に関しては、写真や住所は公開しておりません。和良を訪れた方のみご案内しておりますので、ご安心ください。

## いきもの研究発表会



岐阜大学・向井ゼミ

9月4日(金曜日)、わらおこしで岐阜大学 向井貴彦先生研究室の学生さん4名による研究発表会を行いました。

最初に「愛知県一宮市におけるドジョウ及びカラドジョウの分布」として、地域政策学科4年、橋本昌尚さんの発表です。全国の田んぼや沼地でみられる在来種のドジョウは生息数が減少しています。一方のカラドジョウは中国大陸、朝鮮半島原産で、釣りえさや食用などで輸入されて以来、国外外来種として定着しています。橋本さんはドジョウとカラドジョウの生息分布を調査・研究されています。

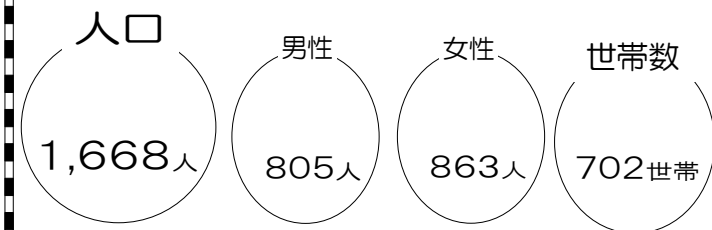
次に「岐阜市におけるミナメダカ分布推定」として、地域科学部4年、萩原健登さんの発表です。ミナメダカは全国的に数が減少しており、岐阜市では、現時点でレッドリストに入っていないが、具体的な分布は分かっていないようです。今後のミナメダカの保全につながるために生息域の変化を把握していく研究がすすまられています。

次に「岐阜県における河川争奪が上流域に生息する淡水魚の分布にどのように影響したのか」として、修士1年、中島廉太朗さんからの発表です。河川争奪とは河川が他の河川の流域を奪う現象のこと。淡水魚のなかでも放流などの影響を受けにくいことから「タカハヤ」を選択。ミナメダカなどで分布を調べ、河川争奪がどのようにタカハヤの生息分布に影響を与えてきたのかを調査されています。

最後に「美濃地方に生息するヘビ類の食性を調べる」として自然科学技術研究科、白木麗さんの発表です。白木さんは昨年発表をされていたので、今年はその後の進捗状況の発表でした。蛇類は、水

## 和良町の人口

令和2年9月1日現在



田などの里山環境に生息しており、里山生態系の中で重要な位置にあることから、ヘビ類の役割を知るために捕獲した蛇のふんから食性を明らかにする研究がされています。

どれも周辺環境からの影響、外来種との交雑や環境保全の大切さなどを物語る発表で、参加者も興味深く聞いておられました。これからも調査研究を進められるようなので、また機会があったらお話を聞きたいと思います。



(発表者と熱心に耳を傾ける参加者達)